

～崩壊地の復旧状況と今後の課題について～

目的

- ・急傾斜地における施工が完了したためその経過報告
- ・今後の課題について整理・考察

1. 背景

・当該箇所は福島県岩瀬郡天栄村西部に位置する。保全対象としては直下に須賀川土木事務所が管理している道路(旧県道)、一級河川(鶴沼川)及び国道118号線、一級河川と国道の間に太陽光発電がある。規模としては約2.50ha、現地状況として全体的に急傾斜かつ高所での施工を行っている。拡大崩壊及び表面侵食等防止するため、斜面の安定と早急な植生導入を行い、森林機能の回復を目指している。



2. 現地施工状況について

平成23年3月崩壊箇所

平成23年7月崩壊箇所

施工内容(H23～R1)
・モルタル吹付工
・法枠工
・排土工

施工内容(R3)
・モルタル吹付工
・排土工

令和4年以降の全体施工計画区域
・植生マット工・丸太筋工
・土留工・排土工

現地施工において発生した問題点について

- ・融雪及び降雨等による表面侵食それに伴う現地状況変化
- ・堆積している残土・転石に関する処理方法とコスト

施工
・モルタル吹付状況

施工
・法枠状況

施工
・法面整形
(セーフティクライマー)

施工
・排土状況

施工
・土捨場状況

これまでの対応と改善点

- ・作業内容を検討し現地に適した工種(セパレートショット工法等)に変更
- ・残土処理地を検討し運搬コストの削減

現地状況と影響

- ・大規模崩壊及び浸食の発生なし
- ・年度毎の残土処理数量の向上
- ・河川への土砂流入の抑止

3. 今後の課題と目標

- ・直径1.0mを超える岩石が多く堆積しているため現地利用含め処理方法を検討。
- ・高所かつ長大な法面のため人力作業が主となる及び積雪期間は現地作業期間が限られるため施工性に配慮した工法の検討
- ・施工期間が長期間になるため現地条件の変化が懸念されるため現地状況の把握と情報整理
- ・道路管理者との情報共有と相互理解

現地状況の把握し施工性・経済性・安全性等
施工地の性質に適した治山工事の実行

